

～子どもが食事を喉に詰まらせたなら？～

子どもは食べ物を喉に詰まらせることがあり、その時の周りの大人の対応次第で、大きな事故を防ぐことができます。一方で、そのような緊急事態には、大人側も慌ててしまい、落ち着いて対応ができない可能性もあります。ですから、今回の記事の内容をあらかじめ知っておき、職員内で共有しておくことが大切です。

①サインに気づこう

- ✔ 咳き込む ✔ 涙目になる ✔ 呼吸が苦しそう

→ 慌てずに「背中を軽くさする、叩く」などで、落ち着かせるように対応。

窒息が
疑われるサイン

- 顔色が悪くなる
- 苦しそうな顔で声が出せなくなる
- よだれを垂らす
- 親指と人差し指で喉をつかむ

「窒息」の可能性があり、緊急で対応が必要。

②窒息の可能性のある場合の対応

- ① 他の職員を呼び、119番に「救急、窒息、意識の有無」を直ぐに連絡
- ② 救急隊が到着するまでの間、子ども本人に対して以下の方法で、詰まったものの除去を試みる

✗ 口の中に指を入れない(さらに奥に詰まる可能性があるため)

1歳未満の場合

背部
叩打法



救護者が膝を曲げ(もしくは椅子に座り)、太ももの上に子どもをうつ伏せに抱きあげます。この体勢で、子どもの背中中の肩甲骨の間のあたりを手のひらで5~6回強く叩き、詰まった食品を吐き出させます。

1歳以上の場合

腹部
突き上げ法



子どもの背中側から救護者の両手を回し、みぞおちの前で両手を組んで、勢い良く両手を絞ってぎゅっと押すことで、詰まった食品を吐き出させます。
※背部叩打法と組み合わせて繰り返します。

＼ 動画で見る /



※適切な対応は喉のどの部分で詰まっているか、基礎疾患の有無で変わることがあります。詳しくは必ず一度、QRコードから動画を参照してください。

POINT

窒息時の対応に関する対応やマニュアルを、必ず事前に園や学校内で共有しておきましょう。

詳しい解説記事はこちら!

